

〈 東北・新潟の活性化応援プログラム 〉 2018年 助成団体活動成果レポート

助成団体

特定非営利
活動法人 **喜多方市民活動サポートネットワーク**

福島県喜多方市

プロジェクト名

若者による観光案内ボランティア 「さくらメイト」養成講座



■地域の紹介

喜多方市は福島県の北西部、会津盆地の北に位置し、北西を飯豊連峰、東を雄国山麓、南を阿賀川に囲まれた自然豊かなまちです。「蔵のまち」や「日本三大ラーメンの一つに数えられる喜多方ラーメン発祥の地」としても知られ、観光資源にも恵まれています。

■地域の課題

喜多方市の「日中線しだれ桜並木」(1984年に廃止された旧国鉄日中線の跡地を利用した遊歩道沿いの桜並木)がここ数年で急激に人気の観光名所となりました。そのため、桜の時期には、交通渋滞や路上駐車、一部の観光客による迷惑行為等が発生するようになったことに加え、桜を目的に訪れた観光客が、他の観光スポットに立ち寄ることなく、すぐに帰ってしまう等の課題が見えてきています。

また、少子高齢化や価値観の多様化等により、地域社会とのつながりが希薄になり、地元への愛着が低下することで、市外への人口流出が続き、人口減少・少子高齢化に拍車がかかるという悪循環に陥っていると思います。そのため、喜多方の豊かな観光資源を整備・活用し、地域の活性化を促していくことが課題です。

■当団体の紹介

高校生や大学生を対象とした養成講座を実施し、日中線しだれ桜並木道をはじめとした地域の観光案内ボランティア「さくらメイト」として認証することにより、若者の地域への愛着と誇りを醸成し、定住やUターン促進を図るとともに、観光客の満足度向上を図ります。





■背景・目的は？

高校生や大学生等の若者を対象に、喜多方の歴史や文化・特色等を地元の専門家から学んでもらうことで、地域の良いところを改めて知るとともに、一緒に学び活動する仲間や地域の方々とのつながりを持つことで、地元への愛着と誇りが醸成され、将来的には、定住やUターンを選択する若者が増えるのではないかと考えました。また、養成講座で得た知識を活用し、さくらまつり開催期間中の日中線しだれ桜並木道で観光ガイドとして活動を実践するなかで、コミュニケーション力の向上や市民活動やまちづくりに積極的に参加する人材の育成につながることを目的に本プロジェクトを実施しました。

■具体的な活動は？

- 2月1日／喜多方市厚生会館第3研修室
事業説明会および記者発表（参加：講師6名他）
- 2月6日～22日
養成講座受講生募集（応募：16名）
- 3月2日／喜多方市厚生会館第3研修室
開講式およびオリエンテーション
（参加：さくらメイト受講生13名、オブザーバー4名、来賓3名、講師5名）
講座1「喜多方の観光名所」講師：喜多方観光物産協会常務理事 樟山 敬一氏
（参加：さくらメイト受講生12名、オブザーバー6名）
- 3月9日／喜多方市厚生会館第3研修室
講座2「喜多方ラーメン」講師：蔵のまち喜多方老麺会第7代理事長 若菜紀子氏
（参加：さくらメイト受講生14名、オブザーバー6名）
講座3「日中線しだれ桜並木道」講師：NPO法人日中線しだれ桜プロジェクト事務局長 井上普氏
（参加：さくらメイト受講生13名、オブザーバー7名）
- 3月16日／喜多方市厚生会館第3研修室
講座4「喜多方の酒と蔵の歴史」講師：福島県酒造組合喜多方支部支部長 佐藤和典氏
（参加：さくらメイト受講生13名、オブザーバー7名）
講座5-1「喜多方御朱印神社めぐり・会津三十三観音堂」講師：福島県立博物館学芸員 塚本麻衣子氏
（参加：さくらメイト受講生12名、オブザーバー5名）
講座5-2「英会話コミュニケーション」講師：リチャード ボンド氏、須藤ボンド亜貴氏
（参加：さくらメイト受講生12名、オブザーバー5名）
- 3月23日／喜多方市厚生会館第3研修室
講座6「おもてなし力向上講座」講師：福島県立テクノアカデミー会津観光プロデュース学科教務 真田風氏
（参加：さくらメイト受講生13名、オブザーバー6名）
『さくらメイト』認定証授与式および閉講式
（参加：さくらメイト受講生13名、オブザーバー3名）
～認定を受けたさくらメイトのコメント～
 - ・あたりまえに住んでいた町は、魅力がいっぱいの町だった！
 - ・受講生同士、講師の方々、オブザーバーの方々など、いろんな人たちとたくさんコミュニケーションをとりながら、楽しく学ぶことができた！
 - ・今後自分たちが喜多方を引っ張っていくという気持ちが湧いてきた！



- 4月13日、14日、20日、21日、28日／きたかたさくらまつり会場
観光案内ボランティア「さくらメイト」スターティングセレモニー（4/13）
観光ガイド活動（参加：44名（累計））

～観光客のアンケートより（さくらメイトに関する主なコメント）～

- ・ボランティアの学生さんたちがとても可愛くてよかったです。
- ・ありがとう！ご苦労様でした。頑張ってください。
- ・若い力で一生懸命頑張ってください。
- ・さくらメイトの活動、是非来年も続けてください。
- ・ボランティアの方の説明に大満足です。旅が楽しいです。

- 5月11日／コミュニティスペースあすばら
反省会（参加：さくらメイト10名）

～さくらメイトのコメント～

- ・このような体験ができてすごうれしかった。
- ・活動を通じてたくさんのことを学びました。改めて人と接することの楽しさがわかりました。
- ・大変でしたがとてもやりがいがあり、「さくらメイト」になってよかったと思いました。
- ・最初は緊張していましたが、段々と慣れてきて話をするのが楽しくなり、学んだことを活かしながらガイドができました。
- ・観光客に自分の力で喜多方の良さを発信できてとてもうれしかったです。
- ・ゴミ拾いもしたらよいのではないかと思います。
- ・おじいちゃんに逆にいろんなことを教えてもらい楽しかった。
- ・回数を重ねて喜多方についてのプロになればいいなと思います。

※ 各講座では、前半に講義、後半はグループワークを行いました。（講座5を除く）

グループワークでは、講義内容を要素分解し、分析、整理して、自分たちの言葉で伝えられるよう、50字程度の文章にまとめました。

グループは毎回違うメンバーとし、始める前にアイスブレイクなどを取り入れながら、円滑なコミュニケーションが図られるように工夫しました。



開講式



地域の文化や歴史、特色等を真剣に学ぶ
さくらメイト受講生たち



講師は地元の専門家のみなさん

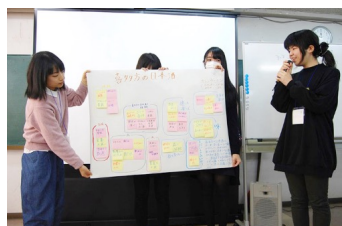


講義内容を基にグループワーク

■活動の成果は？

- 受講した学生たちは、講座とワークショップを通して、この地域独自の文化的な財産に気づき、学ぶことができました。また、さくらメイトとして認証を受け、ガイドとして活動するなかで、観光客からさまざまな質問を受ける機会があったため、地域のことをもっと知りたいという意欲が生まれ、地域に興味を持ってもらうことができました。
- 講座とガイド活動を通して世代の異なる人たちとの交流が図られました。ガイド活動で、初めはなかなか観光客に対し積極的に話すことができなかったさくらメイトについても、向上心が見られました。
- 桜の開花が例年より遅く、開花前に喜多方を訪れる観光客も多い状況ではありましたが、さくらメイトたちが喜多方の紹介等を丁寧に行ったことで、桜が咲いていなくても観光を楽しんでいたようです。
- ガイド活動の際にしだれ桜並木道に落ちていたゴミを率先して拾う等、地元の観光資源や環境を大切にしようとする意識が芽生えていることがうかがえました。

- 新聞やテレビ・ラジオ等でも取り上げられ、活動を多くの方に知っていただけました。また、高校の先生方も毎回参加され、本プロジェクトの趣旨をご理解いただけました。活動が認知されてきた中で、2020年度の「さくらメイト」養成講座には定員を超える17名から応募がありました。また、地元の商店や企業にも多数の協賛をいただき、地域を巻き込んだ活動へと進化させることができました。
- 今回の助成金により養成講座では専門家に講師を依頼することができたほか、さくらメイトが観光案内の際に使用するタブレットを購入できたため、観光客の質問に答える際に役立ちました。また、さくらメイトのイメージキャラクターの制作を喜多方市内在住のアーティスト川合南菜子氏に依頼でき、広報物やさくらメイトのユニフォーム（Tシャツ・ブルゾン）を作ることができました。



グループワークの結果をみんなで共有



さくらメイトTシャツを着て
しだれ桜並木道でのガイドスタート！



観光客へ喜多方の魅力発信



ガイド活動を通して
いろいろな方との交流ができました

団体からのコメント

本プロジェクトは、若者が自分たちの暮らす地域の良いところを改めて知り、地域とのつながりを持つことで、「地元への愛着と誇りが醸成され、定住やUターンという選択をする若者が増加すること」や、「市民活動やまちづくりに積極的に参加する人材を育成すること」を目的としているため、今後も継続して取り組むことでその成果が見えてくると考えています。

前年度の反省を踏まえ、養成講座の内容をブラッシュアップするとともに、前年度にさくらメイトの認定を受けた学生にも事業への協力を依頼します。具体的には、グループワークのファシリテーション補助やガイド活動への参加等を想定しています。

なお、活動の継続には「参加者」と「資金」の確保が重要になると考えています。参加者の確保のためには、これまでのさくらメイトの活躍や今なお協力し続けてくれているさくらメイトの姿をPRすることで新たなメンバーの参加を促していきたいです。資金の確保のためには、地域の皆さんにさくらメイトの活動を丁寧に説明し理解者を増やすなかで、協賛金を募りたいと思います。

いずれはオリジナルの観光マップを作り、その中に広告枠を設けることで、活動資金を自ら生み出す体制を整備したいと考えています。

今後は少子高齢化等により人間関係がさらに希薄になることが予想され、地域コミュニティはますます重要になると考えます。

そのため、当団体は地域の多様な関係者の声に耳を傾け、行政や企業等とも連携することで、時代の変化に伴う新たなニーズへの対応や課題の解消に向けて取り組んでいきます。

